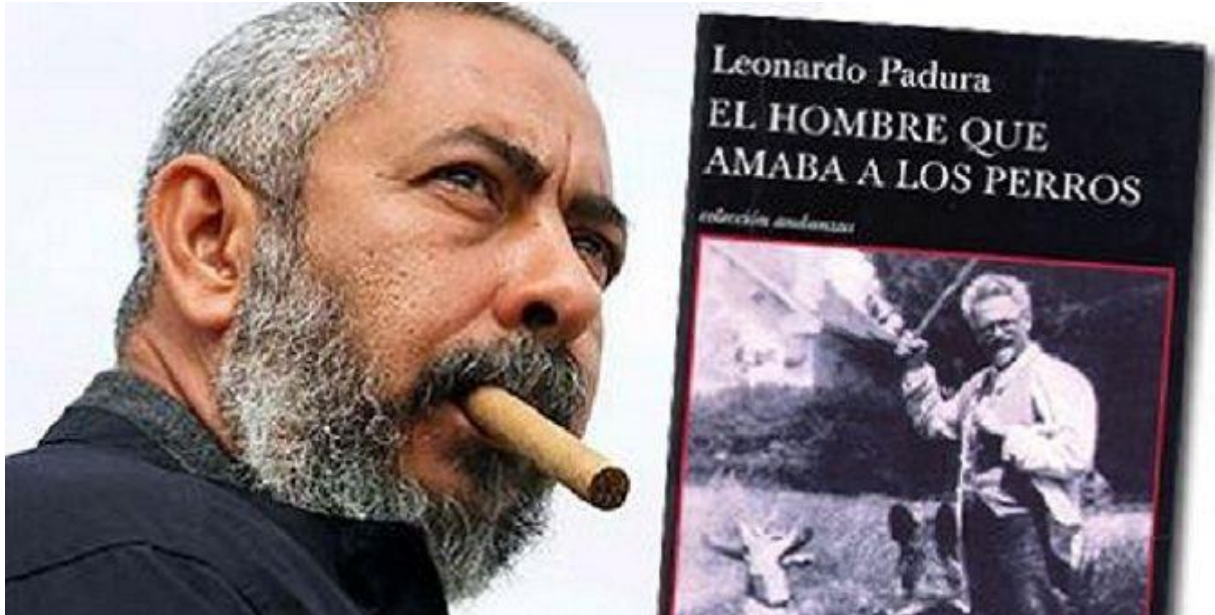


レオナルド・パドゥーラ来日記念講演 「21世紀のキューバに生きる作家として」



Leonardo Padura (Cuba, 1955—)

キューバのマンティージャ生まれ。ハバナ大学で文学を専攻、文学雑誌や新聞の編集に携わり、1990年から探偵小説の執筆に取り組む。〈マリオ・コンデ警部〉のシリーズによってキューバ国内で名を知られ、シリーズ第3作『仮面』（1995年）でカフェ・ヒホン賞を受賞。以後、スペインの出版社から長編小説の刊行を続けている。『我が人生の小説』（2002年）で純文学を手掛け、『犬を愛した男』はスペイン語圏全体で大ヒット作となった。2015年にアストゥリアス王女賞受賞。現在もマンティージャで執筆活動を続けており、歴史小説『異端者』（2013年）、コンデシリーズ『透明な時間』（2018年）などで好評を博し続けている。

2019年5月15日（水）18:30~

早稲田大学 早稲田キャンパス 14号館 4階 402（入場無料、予約等不要）

東京都新宿区西早稲田 1-6-1

問い合わせ先：社会科学部寺尾隆吉研究室 Email:teraoryukichi@waseda.jp

レオナルド・パドゥーラは、現代キューバを代表する作家として、1990年代後半以降、国内から世界に向けて小説作品の発表を続けています。21世紀のキューバに生きる作家の視点から、ロシアの革命家トロツキー暗殺の謎に迫る大作『犬を愛した男』（2009）は、スペイン語圏全体に大きな反響を呼び起こしました。

『犬を愛した男』（水声社）の邦訳出版に伴う待望の初来日（協力：セルバンテス文化センター東京）を記念して、上記のとおりパドゥーラ氏の講演を開催します。物理的・心理的制約の多いキューバで創作を続ける苦悩と喜びをたっぷり語っていただきます。言語：スペイン語（通訳付き）

